

受賞作品が決まりました

第12回「海の香りのする詩」

海をテーマにした「海の香りのする詩」の受賞作品が決定しました。

市内から701点、市外（県内）からは520点の応募があり、回を重ねることに作品のレベルが上がる中、次のみなさんが入賞しました。

教育委員会生涯学習課 ☎1268

【市内小学生の部】

大賞 「海と空」中村笑香（答志小6）、作品は3ページに掲載しました。

島から活気がなくなつた
男たちは黙々とロープを片付け
女たちは仰向いて海苔の袋を
洗っていた

入賞 「夢の舞台」岩本拓也（加茂小6）、「千賀の海で魚をつる」村岡樹（弘道小6）、「夏休みの海と私」野村美晴（弘道小6）

祖父の時代はとても高価だった
というが
今、海苔は海岸に掘った穴に埋
めている

奨励賞 「おじいちゃんとおつり」廣川悠子（加茂小6）、「お父さんは夜の漁師」濱口航汰（桃取小5）

まるで墓地に埋められているよ
うだ
砂の下、深いところで

【市内中学生の部】

大賞 「海と生きる」濱口あかり（鳥羽東中2）

父たちは沖で海苔を摘んできて
は
海苔を海岸に捨て続けた
摘み船いっぱいの丹精こめて育
てた海苔を

二年連続で海苔が悪かつたので

いくつもいくつもの袋に詰めて

運び

無表情に処分していった

毎年四月の初めまで海苔の仕事があるのに
今年は二月に終わってしまった

そして来シーズン、我が家は海苔を辞める
祖母も高齢だし、もう海苔では食へていけないのだという

夏には父も母も海に潜っていた冬になつたら父は
刺し網やたこつぼ漁をする算段をしている

私たちは島に住んで、海と共に生きていく
この島とこの海が好きだから

入賞 「海の創造者」上村優依（加茂中2）、「小さいわたしと大きな海」河邑明日香（加茂中3）、「8月の海岸物語」川村密善（鳥羽東中3）

奨励賞 「わたしたちと海」永富重裕（答志中3）、「海はとってもおいしいん坊」中村太朗（鳥羽東中1）

みなさんの作品は、受賞作品集として編集し、配布する予定です。

人権文化の花を咲かせよう

Vol.80

壁掛け

教員を退職されたかたを訪問する機会がありました。そのかたの家には、一つの壁掛けがかかっている、こんなお話をされました。

「この壁掛けには、『命の尊さと人の心の優しさを大切に』と書かれています。わたしが担任として受け持ったクラスには、必ずこの壁掛けをかけていました。常にクラスのこどもたちに訴えていきたくつたからです。今のようない時代だからこそ、一番訴えていかねばならないことだと強く思っています」

親や学校の先生はもとより、地域の多くのかたがたが、

こどもたちみんなが命の尊さを理解し、心の優しさを持つた大人に育ってほしいと願っていると思います。

しかし、現実には目を向けられず、学校ではいじめがあり、社会では、弱い立場の人たちをますます苦しい立場に追い込み、時には、自殺にまで追い込むようなことが起こっています。それをこどもたちは、さまざまな形で見ています。

壁掛けに書かれている「命の尊さ」とは、自分の命、そして相手の命も大切にすることです。こうした気持ちがあればこそ、相手に対する優しさや思いやりが生まれてくるのではないのでしょうか。

『命の尊さと人の心の優しさを大切に』
こうした気持ちを持つ人が一人でも多くなれば、人権が尊重される住みよい社会に少しずつ近づいていくような気がします。

